



## シリーズを閉じる

なるほどシリーズの『ホント学』は、助教授の頃、難しい病理学を学生に「なるほど」と思わせることができたなら……という私の教育コンセプトから、実際に学生に教えている私の授業内容を書き上げたものである。IT環境のなか、従来の教科書は必要ないと思っていた私なので、ITでは表わせないような（もしかしたらできるが）、「なぜ」「どうして」「なるほど」を字で読ませることを実現させたかったのである。

次の『ボウケン学』は、自叙伝的性格をもつ本となり、自由気ままに書きなぐることをお許しいただいた。とくに、現在の私の基盤となる病態学を教えてくださった剖検（病理解剖）のご遺体は、いまでも私の最大の恩師であると思っている。また、幼少時代から青春時代に過ごした武者小路実篤や安部公房氏の住む緑多き武蔵野の地では、文筆活動と自由な生活に目覚めさせてくれた冒険時代であった。そして、歯科大学に進み、歯科医師として、また病理専門医を通して世間を、歯科界を望見できたことは大いなる自己発展につながったと自負している。

三作目の『ケンサ学』では、大学の統廃合に伴い病理学から臨床検査学に移った経緯から、難しい臨床検査理論を解りやすく書くことに専念した。長い期間、谷底に置かれてきた歯科における臨床検査を少しでも引き上げるために……。その結果、検査学研究室を立ち上げ6年目の2007年に、日本口腔検査学会を立ち上げることができた。

そして今回、シリーズ最終章ということで『イロイロ学』を執筆することになった。歯科には多くの意味不明の事柄が氾濫している。剖検、冒険、望見の知識を生かし、色々な事柄について執筆してみることとした。

最後に、あらゆる面で厳しさが浮き彫りとなっている歯科界であるが、学生には常に、歯科はこんなにも楽しい職業である……と伝えることを忘れないようにしている。

2010年3月

井上 孝

